愛知教育大学「明倫堂文庫」展　解説と展示資料

【目次】

はじめに
1. 明倫堂とは
　コラム　明倫堂の教え
2. 明倫堂旧蔵書のゆくえ
　コラム　「愛知県」の県名と県域について
3. 明倫堂旧蔵書の確認作業について
　【1】明倫堂の蔵書目録との照合
　【2】明倫堂に関連する蔵書印の有無
　　蔵書印の紹介
　　明治初期「学校」関連略年表と明倫堂関連蔵書印
　【3】明倫堂に関連する「筥名（はこな）」の有無
　　蔵書目録と筥名の記載例
4. 尾張藩諸機関との繋がり
　コラム　その他の蔵書印について
おわりに
展示資料リスト
参考文献

※このテキストは「愛知教育大学「明倫堂文庫」展」（2023 年 12 月 1 日～27 日、附属図書館 多目的スペース 日本文教出版 Atelier Nichibun）の展示解説と展示資料リストを再編したものです。

はじめに

愛知教育大学附属図書館では江戸時代以前に作られた和書や漢籍を所蔵しています。その中には、尾張藩の藩校明倫堂（めいりんどう）の蔵書であった和漢書も多数含まれています。和漢書の所在は紙媒体の蔵書目録に記載され、図書館内で代々受け継がれていますが、利用者の方々がインターネット上で蔵書検索を行うことは出来ません。また明倫堂の蔵書は明治以降に様々な経緯をたどっており、その全体像は明らかにされてはいません。

そこで、図書館では藩校時代における明倫堂の蔵書一覧を復元することを試みました。これは本学に伝わる明倫堂関連の和漢書のリストに、本学以外に所在する同類資料の情報を加えたものです。

今回の復元作業の成果は、広く研究活動に役立てていただくため『愛知教育大学「明倫堂文庫」』として図書館ホームページにて公開しています。復元作業の成果をご紹介するとともに、図書館所蔵の貴重な和漢書に接する機会として、本展示会を企画しました。どうぞご覧ください。

1. 明倫堂とは

明倫堂は江戸時代に尾張（名古屋）藩によって設置された学校です。学問好きであった初代藩主徳川義直（徳川家康の九男）の書斎兼学問所を起源とし、9代藩主宗睦により 1783（天明 3）年に開設されました。「明倫堂」の名は、8 代藩主宗勝が自筆の「明倫堂」という扁額（徳川美術館現蔵）を尾張藩の儒学者である蟹養斎の学問所（家塾）に与えたが、学問所は衰退し、宗睦がその扁額を藩校に下賜したことに由来しています。

明倫堂は尾張藩士の教育を目的としており、科目は漢学・躾法・音楽・算術などがありました。後に天文・地理・兵学が科目に加えられます。また、天明年間には平民の聴講も認められていました。
明治維新後の 1869（明治 2）年に明倫堂は「学校（名古屋藩学校）」と改称し、1871（明治 4）年の廃藩と同時に廃校となりました。

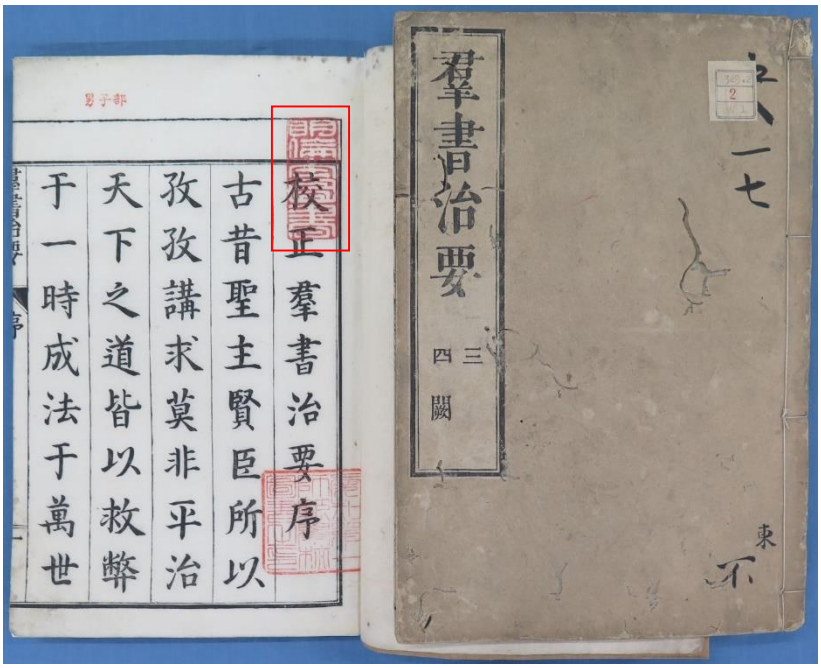


図 1　羣書治要(1787[天明 7]年序)
明倫堂の蔵書印を持つ図書。巻首右上に「明倫堂図書」とあり。明倫堂の蔵書印は他に「明倫堂書庫記」(図 2)がある。

コラム　明倫堂の教え

1811(文化 8）年に 67 歳で明倫堂の督学（藩校の長）に就任した冢田大峯は、戒約・撰挙科目・読書次第を新たに制定するなど、明倫堂の改革を行いました。読書次第では、「孝経、六記、論語、家語、孔叢子、毛詩、尚書、周易、礼記、春秋経伝、国語、孟子、荀子」の 13 書を教科書として、必ず毎日熟読し、詳しく研究するよう述べています。また戒約の内容からは、当時の明倫堂の教えの一端が垣間見えます。

戒約（抜粋）　『日本教育史資料 六』文部省総務局 1892 年 より

一 学問の用心孝悌忠信を本とし政治の道を心得て若一官一職を任せられは其官職相応の謀慮を発し治安の一助をなさんと志し・・・(以下略)

（学問の心がけは、目上の者によく仕え、誠実につとめを果たすこと。政治を理解し、もし職位を得たら相応の働きをして世の安寧に貢献すること。）

一 学友の心得は貴賤長少を論すへからす智恵利鈍を懐へからす己か長する所を以人の短なる処をさみすへからす毎に忠告善導を勉むへし然れとも賤の貴に対し少の長に対するは学の深浅を思はす礼譲を失はさるへきなり

（学友の心得として、身分の上下や知恵の有無を気にしてはいけない。自分の長所を以て他人の短所を見下してはいけない。誠実に相手の過ちを諭し、善導に励むこと。ただし目上の者に対しては、学識の深さに関わらず礼儀を失ってはいけない。）

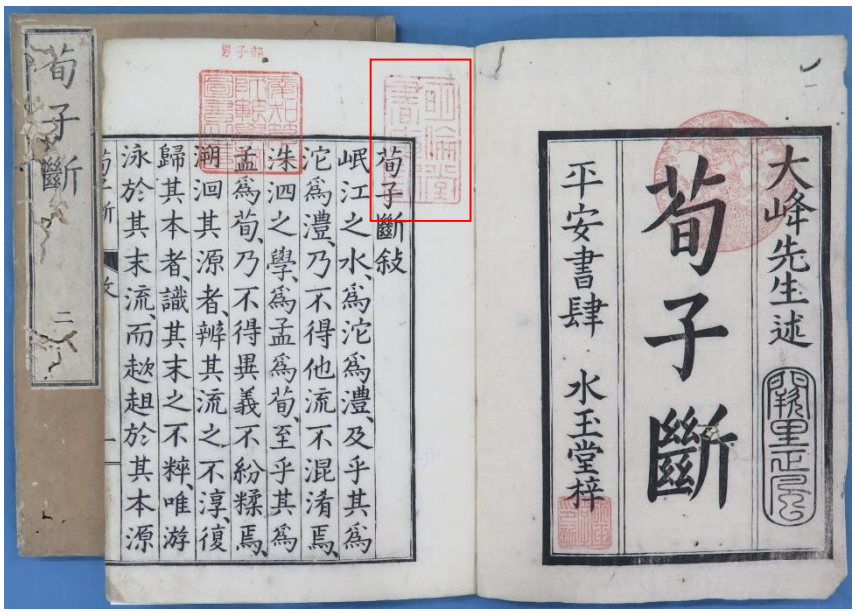


図 2
冢田大峯著 荀子斷(じゅんしだん)(1795[寛政 7]年刊)
巻首右上に蔵書印「明倫堂書庫記」が捺されている。

2. 明倫堂旧蔵書のゆくえ

幕末期の明倫堂には 23,000 冊以上の蔵書がありましたが、1871（明治 4）年の廃校後、それらの蔵書は以下のような経緯をたどりました。

1871 年 11 月に文部省が各県に通達を出します。内容は、「明倫堂を含む愛知県下各藩の旧蔵書について、現在の収蔵場所を報告せよ」というものでした。愛知県からの報告を受け、文部省は図書を文部省および愛知師範学校（官立。文部省直轄。1874 年 2 月設置）に提出するよう命じます。そのうち文部省に提出された図書は、1876（明治 9）年 5 月に東京書籍館（とうきょうしょじゃくかん）（日本最初の公立図書館。蔵書は現在、国立国会図書館に収蔵）へ交付されました。同時期に愛知師範学校へ移管された図書が、本学蔵書に含まれています（官立の愛知師範学校は 1877 年 2 月に廃止され、その施設・設備等は県立の愛知県師範学校に引き継がれました）。

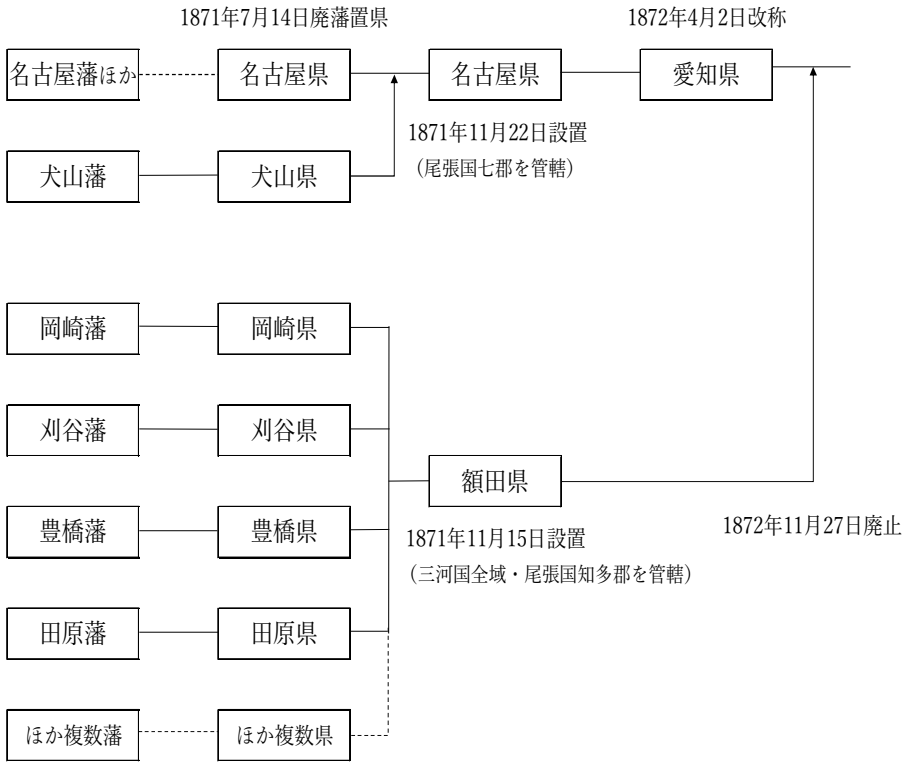
各藩の旧蔵書のうち、東京書籍館や愛知師範学校への提出が命じられなかった図書もありました。それらの図書については、1876 年 8 月頃に売り払いが計

画されます。売り払いの目的は、同時期に設置された愛知県師範学校（県立）で必要な書籍の購入資金を調達するためです（ただし、入札後は書籍ではなく化学実験器械の購入が図られています）。
この時、「有用」と判断されて売り払い対象から除外された図書が多数ありました。それらは愛知県師範学校の蔵書となり、本学に引き継がれています。

コラム　「愛知県」の県名と県域について

1871（明治 4）年 7 月の廃藩置県により名古屋県、犬山県、岡崎県、刈谷県など複数の県が設置されましたが、旧藩域をそのまま継承したため各県の管轄区域は複雑に入り組んでいました。その後、同年 11 月の府県改置により、愛知県域には尾張国七郡を管轄する名古屋県、三河国全域と尾張国知多郡を管轄する額田県の二県が設置されました。翌 1872 年 4 月に名古屋県は愛知県と改称され、同 11 月に額田県を合併して、現在の形が成立しています。

県域変遷図



3. 明倫堂旧蔵書の確認作業について

附属図書館では明倫堂旧蔵書復元のため、所蔵する和漢書について書名や著者名以外にも様々な項目を確認・記録する作業を行い、その成果として以下２種類のリストを作成しました。

① 尾張藩校明倫堂・名古屋藩学校の蔵書復元リスト（表Ⅰ:漢籍　表Ⅱ:和書）
明倫堂旧蔵書の全体像を示す目的により作成したもの。附属図書館に所蔵が無い和漢書も含まれる。

② 愛知教育大学「明倫堂文庫」一覧（表Ⅲ:漢籍　表Ⅳ:和書）
附属図書館所蔵資料の中から、明倫堂旧蔵書や関連のある和漢書を選定したもの。

※各リストは以下のホームページで公開しています。

愛知教育大学「明倫堂文庫」
https://meirindo.auelib.aichi-edu.ac.jp

→ 選定方法の詳細については、
『尾張藩「明倫堂」蔵書と愛知教育大学「明倫堂文庫」』 5. 本学の「明倫堂文庫」の選定（p35～）をご参照ください。

ここからは、リスト作成のために行った代表的な内容を３つ紹介します。

【1】明倫堂の蔵書目録との照合

明倫堂の蔵書目録（=所蔵資料のリスト）は成立年代等が異なるものが複数現存しています。附属図書館では『明倫堂蔵書目』（※）を底本としつつ、その他 9 つの目録を含めた全 10 種類を校合のうえリスト化し、記載されている和漢書が本学図書館に所蔵されているか否かを確認しました。また、明倫堂の蔵書の全体像を導き出すという観点から、目録に記載がある和漢書は、現在の所在に関わらず「①尾張藩校明倫堂・名古屋藩学校の蔵書復元リスト」に加えています。

※『明倫堂蔵書目』（名古屋市鶴舞図書館蔵）
1853（嘉永 6）年に、当時明倫堂の典籍（てんせき）（書物の収集・管理担当）を勤めていた細野要斎（ほそのようさい）が自筆した本の転写本。

【2】明倫堂に関連する蔵書印の有無

蔵書印とは、書籍の所有を明らかにするために書籍本体に押される印章（ハンコ）のことです。和漢書には複数の蔵書印が押されていることもあり、蔵書印を調べることによって、その書籍の所有者の変遷（どこからどこへ移っていったのか）を知ることができます。
附属図書館では明倫堂(※1)と、その後を継ぐ名古屋藩学校（※2)、名古屋県中学校（※3）の蔵書を②愛知教育大学「明倫堂文庫」一覧に加えています。これは、名古屋藩学校や名古屋県中学校の蔵書の一部について、明倫堂の蔵書に記入されていた「筥名」(次項目参照）が継続的に使用された痕跡が認められるためです。

例：『令義解校本』と『日本書紀』

『令義解校本』1864（元治 1）年刊　蔵書印「明倫堂図書」　筥名「切」

『日本書紀』1599（慶長 4）年跋　蔵書印「名古屋藩学校之印」　筥名「切」

蔵書印から、それぞれ明倫堂時代、名古屋藩学校時代に受け入れたもの（=受け入れ時期が異なる）と分かります。一方、筥名（表紙の書入れ）に注目すると、いずれも同じ「切」の字が記されており、筆跡も酷似しています。

以上のことから、明倫堂で使用されていた蔵書管理方法が名古屋藩学校でも継続したといえます。

※1　蔵書印は「明倫堂図書」「明倫堂書庫記」

※2　蔵書印は初め「名古屋藩学校之印」、後に「名古屋学校」

※3　蔵書印は「名古屋県学校印」

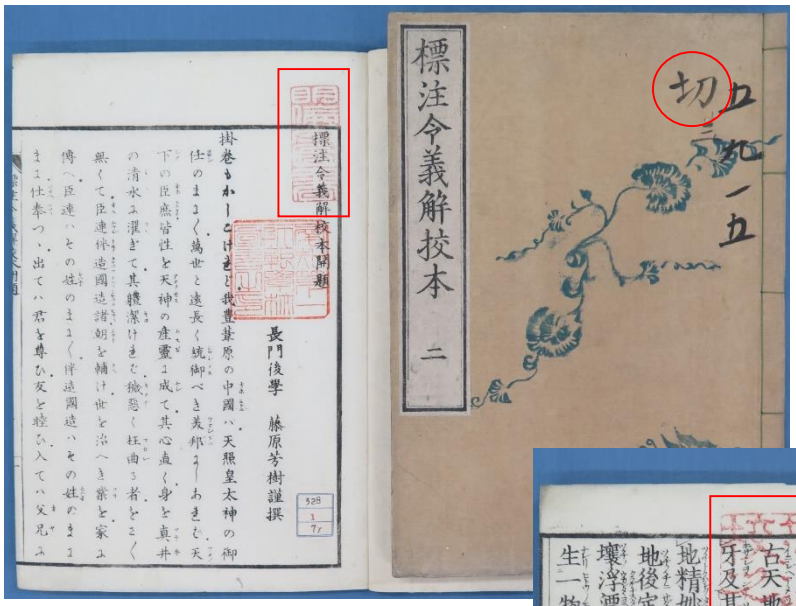


図 3　令義解校本（1864[元治 1]年刊）
蔵書印：「明倫堂図書」　筥名：「切」

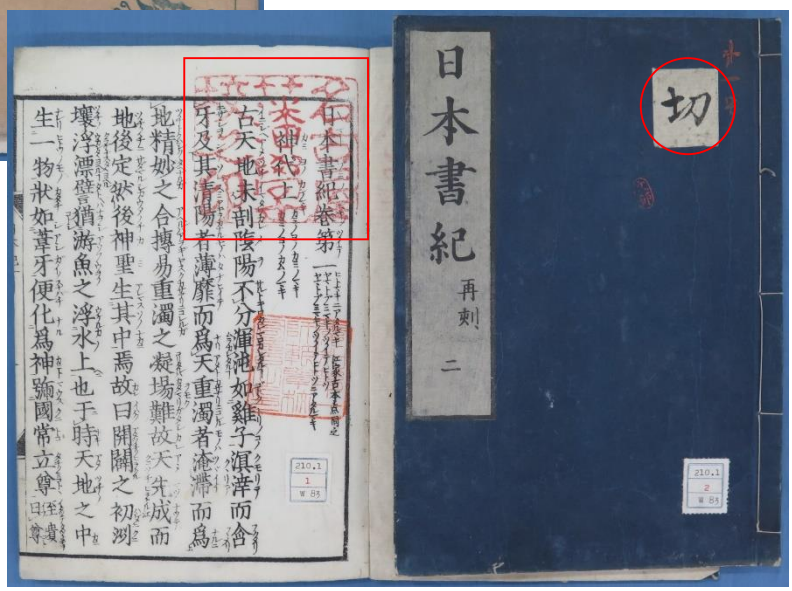


図 4　日本書紀（1599[慶長 4]年跋）
蔵書印：「名古屋藩学校之印」　筥名：「切」

蔵書印の紹介

図 5 各国盛衰強弱一覧表／附図（1867[慶応 3]年序・刊）

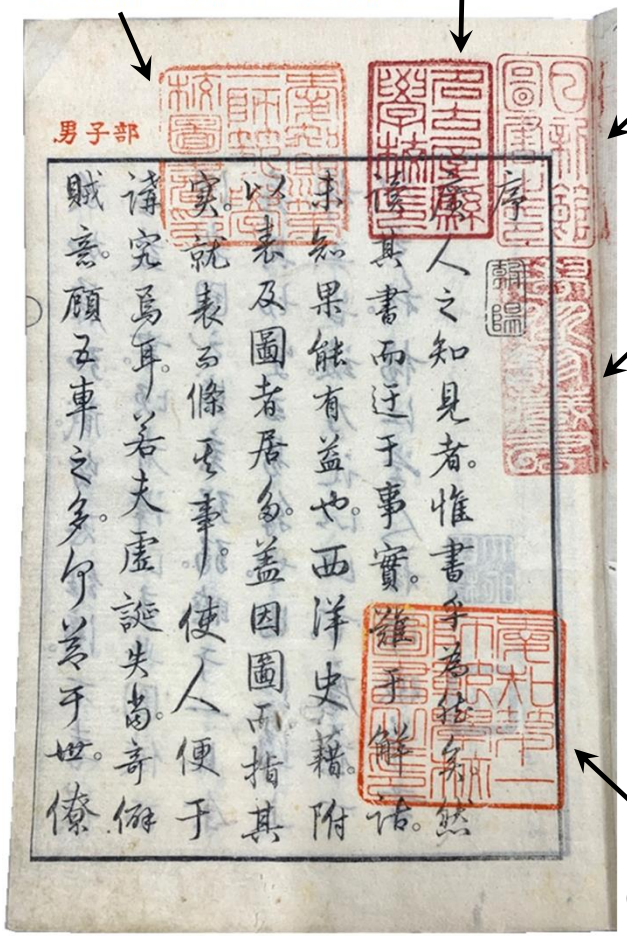
「名古屋県/学校印」

「愛知県第/一師範学/校図書印」

「日新館/図書之印」※1

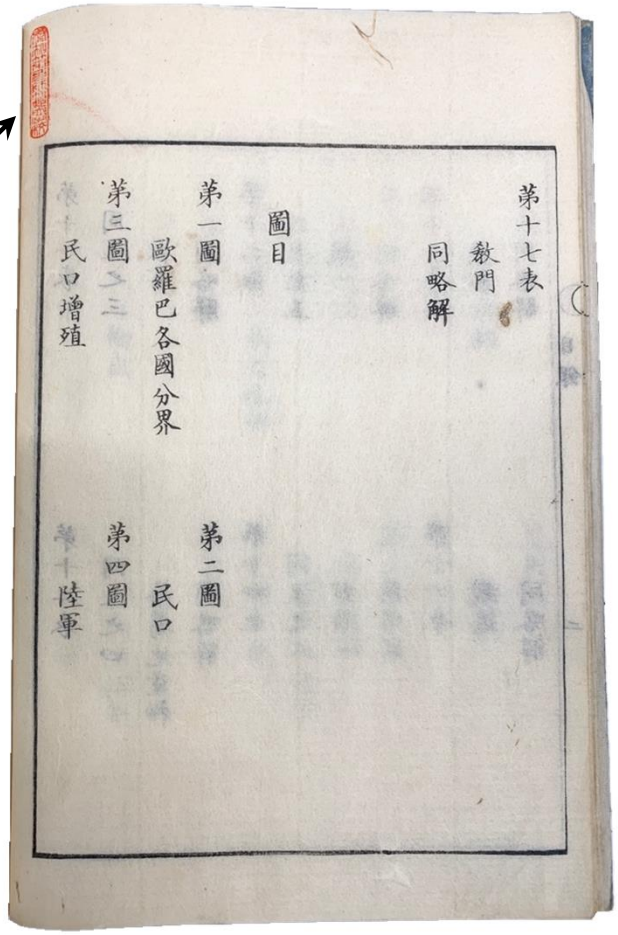
「学習館蔵書」※2

「愛知第一/師範学校/図書之印」



（一頁）

「愛知第弐師範学校」



（十頁）

※1　日新館･･･碧海郡大浜に設けられていた菊間藩の郷学（郷校）。

※2　学習館･･･蔵書印は、尾張（名古屋）藩関係の蔵書印とともに捺されているところから関係のあった機関の蔵書印と思われるが、不明。

明治初期「学校」関連略年表と明倫堂関連蔵書印

年	関連事項	藩／県	明倫堂関係【蔵書印】	県立師範	官立師範
慶応4 1868	9月明治改元	尾張藩	明倫堂 **【明倫堂図書】** **【明倫堂書庫記】**		
明治2 1869	6月版籍奉還、名古屋藩と改称	名古屋藩			
	11月		学校と改称(名古屋藩学校) **【名古屋藩学校之印】**		
明治3 1870					
明治4 1871			**【名古屋学校】**		
	7月廃藩置県。文部省創設	名古屋県	「学校」廃止		
	10月 11月文部省、各府県に旧藩襲蔵目録提出を命ず		「名古屋県中学校」開校 **【名古屋県学校印】**		
明治5 1872					
	4月	愛知県			
	9月		名古屋県中学校廃止		
明治6 1873					
	12月			「愛知県養成学校」開校	
明治7 1874					
	1月			(岡崎に別校開校)	
	2月				愛知師範学校
明治8	4月			(別校廃止)	
明治9 1876	5月19日愛知県分、書籍館に交付 8月31日愛知県、入札払下発議。9月8日許可			「愛知県師範学校」と改称	
明治10 1877					
	2月		愛知県中学校開校		愛知師範学校廃止
明治11 1878	1月28日入札決定 2月2日入札				

愛知教育大学「明倫堂文庫」蔵書印の一例

（一般財団法人 人文情報学研究所「蔵書印ツールコレクション」より。掲出の図書はいずれも本学蔵書、写真は本学提供のものである）

明倫堂（～明治2年）

【明倫堂図書】

『群書治要』天明7年4月序 より
（5.6×2.4cm）

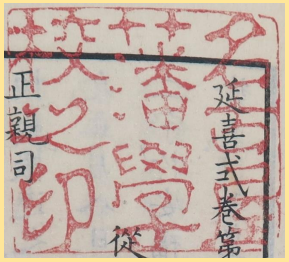
【明倫堂書庫記】

『参考太平記』元禄4年刊 より
（6.0×3.7cm）

名古屋藩学校（明治2～4年）

【名古屋藩学校之印】

『延喜式』文政11年刊 より
（7.1×7.8cm）



【名古屋藩学校之印】

『理学初歩』1866年刊 より
（3.6×3.6cm）

【名古屋藩学校之印】

『格物入門』明治２年官許 より
（4.6×3.0cm）

【名古屋学校】

『皇朝史略』より
（2.9×2.1cm）

名古屋県中学校（明治4～5年）

【名古屋県学校印】

『西洋各国盛衰強弱一覧表』慶応３年刊 より
（4.6×3.1cm）

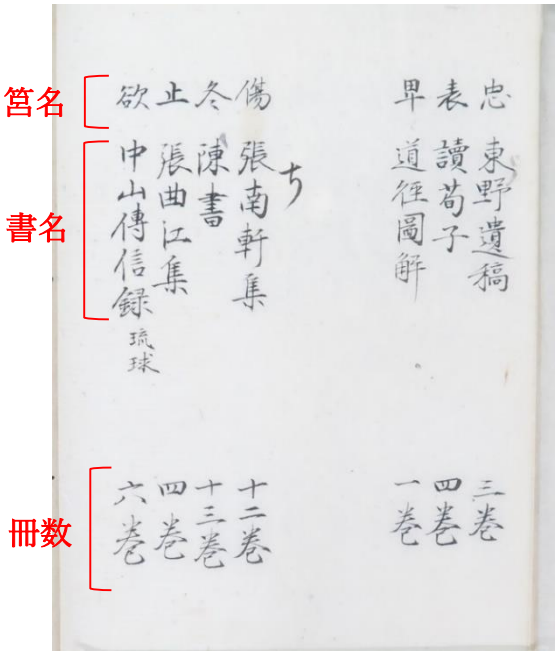
【3】明倫堂に関連する「筥名（はこな）」の有無

明倫堂由来の書籍には、表紙に「天」などの漢字 1 文字が手書きで記入されているものが多数存在します。この漢字を便宜的に「筥名」と称していますが、書籍の出納・管理に用いられていた記号と思われます。
明倫堂の蔵書は千字文（せんじもん）（※）の順に名づけられた「筥（はこ）」に収納されていたようで（目録等の記載によれば 1 筥に 100 冊前後収納の事例が多い)、3 種類の明倫堂目録の収録図書名には、それぞれ千字文由来の漢字が付記されています。さらに明倫堂由来の書籍の表紙には、目録に付記されていたものと同じ漢字が実際に手書きで記されているのが通例です。

※千字文
梁（りょう）（中国）の武帝（ぶてい）（在位 502～549）の命により、1,000 の漢字を四字句からなる韻文に編んだもの。同じ漢字を二度と用いることがない。「天地玄黄（てんちげんこう）、宇宙洪荒（うちゅうこうこう）」（天の色は黒く地の色は黄色であり、空間や時間は広大で茫漠としている）に始まる。初学者の漢字学習用に用いられ、日本でも平安時代から漢字・習字教科書に使用されており、大人になっても千字文の順は深く身についていた。

「天」「地」「玄」など千字文の冒頭の漢字（筥名）が付されている漢籍は、早い段階から明倫堂に所蔵されていたことが分かります。それらは当初から明倫堂の科目であった漢学（中国伝来の漢籍・中国思想・漢詩文等の研究）の資料として用いられていたものと考えられます。

蔵書目録と筥名の記載例



実際の図書

図 6 明倫堂御書目（1860[安政 7]年写）本学所蔵。「筥名」が付記されている目録 3 種類のうちの 1 つ。「(筥名)欲　(書名)中山傳信録　(冊数)六巻」と記載されている。

図 7 中山傳信録（1766[明和 3]年序）左の目録において、書名索引「ち」の項目に載る「中山傳信録」の現物資料の表紙。目録に載る筥名が右下に記されている。

4. 尾張藩諸機関との繋がり

愛知教育大学「明倫堂文庫」リストには、尾張藩の諸機関の蔵書印を含む和漢書が含まれています。これらは貸借（貸し借り）によって明倫堂に所蔵され、本学に受け継がれたものと思われます。

例：『湖月抄』（源氏物語の注釈書。全 60 冊）

本学所蔵の和書『湖月抄』には「雲隠説」が 2 冊あり、総冊数 61 冊です。61 冊のうち 59 冊には蔵書印「明倫堂書庫記」があり、残る 2 冊（「桐壺」1 冊、「雲隠説」1 冊）には「尾藩寺社官府蔵書」という蔵書印があります。

これは藩校明倫堂と尾張藩寺社奉行所の間で何らかの交流があり、その過程で寺社奉行所にあった「桐壺」と「雲隠説」が明倫堂蔵書に加わったことを示し

ています（ちなみに筥名については「桐壺」を除く 60 冊に、『明倫堂蔵書目』に記載された筥名「國」が記されています）。

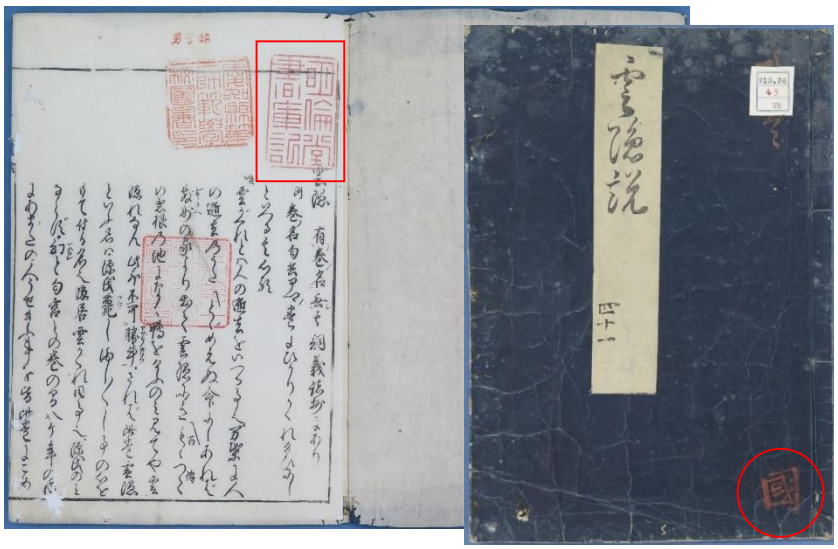


図 8
湖月抄 雲隠説（1673[延宝 1]年刊）
蔵書印：「明倫堂書庫記」
筥名：「國」

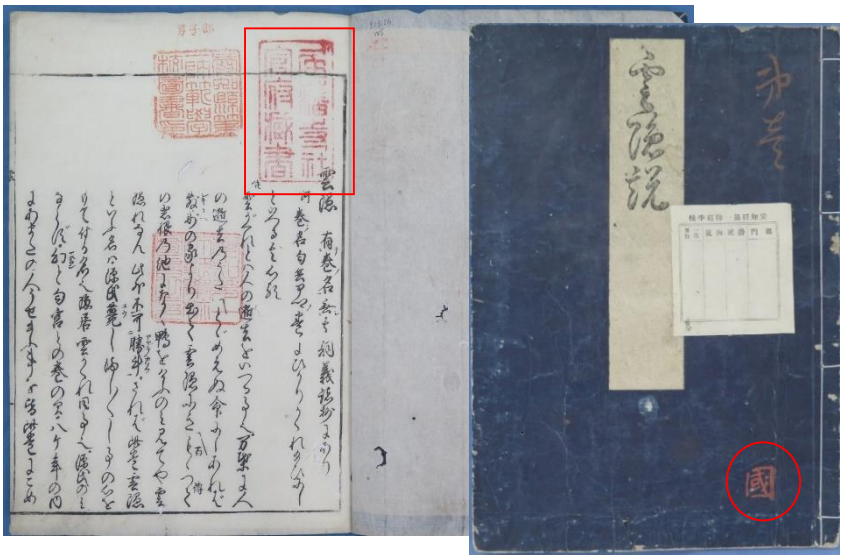


図 9
湖月抄 雲隠説（1673[延宝 1]年刊）
蔵書印：「尾藩寺社官府蔵書」
筥名：「國」

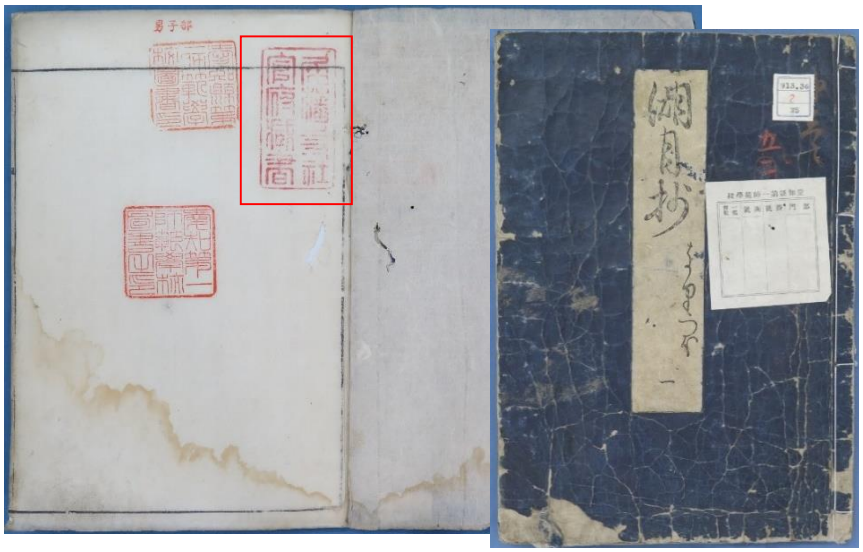


図 10
湖月抄 桐壺（1673[延宝 1]年刊）
蔵書印：「尾藩寺社官府蔵書」
筥名：[なし]

コラム　その他の蔵書印について

（3.4×3.3cm）

図 11「御本」字彙（1615[萬暦四十三]年）より

尾張藩初代藩主徳川義直（徳川家康の九男）の蔵書印。義直が父・徳川家康から譲り受けた書物（駿河御譲本）にも見受けられる。

（3.8×3.2cm）

図 12「御日記所」尾張国解文（書写年不明）より

尾張藩主とその一族にかかわる記録の編纂を行った役所の名称。藩主一族の公務を中心に記述された藩の正史「御日記」等の編纂を行った。御日記所の蔵書は編纂の資料として集められたものであり、資料の収集、筆写も御日記所の重要な職務の一つだった。

（7.6×4.3cm）

（7.5×4.9cm）

左図 13「尾府内庫図書」信長記(書写年不明）より

右図 14「張府内庫図書」貞觀政要(1600[慶長五]年刊）より

「尾府」「張府」はいずれも尾張藩庁の所在地という意味で、「内庫」は名古屋城内二の丸庭園の片隅にあった奥御文庫を意味する。

おわりに

復元作業の結果、明倫堂旧蔵書のうち、同一とみなされる複数の図書を１部に集約した場合、全部数の半数程度を本学附属図書館が所蔵していることが判明しました。今回の成果を公開することにより、藩校明倫堂の当時の姿とその後の変遷を解明する契機となれば幸いです。

愛知教育大学「明倫堂文庫」
https://meirindo.auelib.aichi-edu.ac.jp

展示資料リスト

凡例

・**書名**　（書誌詳細: 漢 0001）（※1）
序年・跋年・刊年　分類（漢籍は四部分類（※2））　刊／写　冊数　「筥名」
「蔵書印字」

※1 青字の整理番号をクリックすると、愛知教育大学「明倫堂文庫」HP で公開している書誌詳細ページにリンクします。
「＊書誌詳細ページよりモノクロ全文画像を閲覧できます。」とある資料は、国文学研究資料館の国書データベースにリンクし、本学図書のマイクロフィルムを電子化した全文画像を閲覧できます。

※2 四部分類とは
漢籍の分類法の一種。四部は経部(けいぶ)・史部(しぶ)・子部(しぶ)・集部(しゅうぶ)の総称。
分類は 3 層で、上から「部」「類」「属」となっている。

経部：儒教の経典
儒教の経典およびその注釈評論が中心。小学（文字の学）関係の書も含む。

史部：歴史
歴史地理が中心。実際政治および法律に関する文献も含む。

子部：諸子百家（中国の思想家）の書
儒家・あるいは儒家以外の思想家（諸子）の著作、理学書、雑技、芸術書、宗教書、雑書、西洋の学芸の影響を受けた書物など。

集部 ： 詩文などの文学作品および批評と文人学者の全集

展示資料

図 1　**羣書治要**（ぐんしょちよう）　（書誌詳細: 漢 0849）
1787（天明 7）年序　子部雑家(ざっか)類　刊本　25 冊(原闕巻第四, 第十三, 第二十)　「不」
「明倫堂図書」「愛知第一／師範学校／図書之印」「男子部」「愛知第弍師範学校」
中国、唐の太宗(たいそう)の勅命により、631（貞観 5）年に学識ある高官たちが編纂した書。経書をはじめ正史や諸子の書から政治上の要項を抜粋して編纂したもの。中国では早く散逸したが、日本では 1616（元和 2）年駿河で徳川家康により古活字版が印行されたのをはじめ、尾張藩の天明版、紀州藩の弘化版と相次いで刊行され広く普及した。

図 2　**荀子斷**（じゅんしだん）　（書誌詳細: 漢 0617）
1793（寛政 5）年序・1795（寛政 7）年刊　子部儒家(じゅか)類　刊本　4 冊　「容」
「明倫堂／書庫記」「愛知第一／師範学校／図書之印」「男子部」「愛知第弍師範学校」
見返し（表紙裏）の上部に魁星(かいせい)印（※）あり。
中国の思想書『荀子』の注釈書。著者の冢田大峯(つかだたいほう)は儒学者であり、明倫堂の督学(とくがく)を務めた人物。老中松平定信(まつだいらさだのぶ)による寛政異学の禁を批判したことから、同じく異を唱えた 4 人とともに「寛政の五鬼」と称された。

※「魁星」は北斗七星中の第 1 星、または第 1 星から第 4 星までの名。文運をつかさどる星として、とくに科挙試験の受験生により信奉された。「魁星印」は中国明清代や江戸時代に版本の見返しや扉に捺された印（刊行時の装飾であり、蔵書印ではない)。多くは魁星を人格化した姿をかたどる。

図 3 令義解校本（りょうのぎげこうほん）　(書誌詳細: 和 4312)

1864（元治 1）年刊　法制　刊本　6 冊　「切」

「明倫堂図書」「愛知第一／師範学校／図書之印」

近藤芳樹(こんどうよしき/幕末から明治期の国学者、別名：藤原芳樹）著。『令義解』(「養老令」の公定注釈書）の諸種の本文を比較検討し、拠るべき形とその根拠を示したもの。

図 4 日本書紀（にほんしょき）　(書誌詳細: 和 3137)

1599（慶長 4）年跋　通史　刊本　15 冊　「切」

「名古屋／藩学／校之印」(甲)「愛知第一／師範学校／図書之印」「文部」

日本最初の勅撰の歴史書。六国史の第一。舎人親王(とねりしんのう)らの編。720（養老 4）年成立。帝紀・旧辞のほか寺院の縁起、諸家の記録、中国・朝鮮の史料などを資料として広く用い、神代から持統天皇までを漢文の編年体で記したもの。

図 5 各国盛衰強弱一覧表／附図（かっこくせいすいきょうじゃくいちらんひょう／つけたりず）　(書誌詳細: 和 0577)

1867（慶応 3）年序・刊　外国史　刊本　1（[本編]存）　（なし）

「名古屋県／学校印」「学習館蔵書」「日新館／図書之印」「愛知県第／一師範学／校図書印」「男子部」「愛知第一／師範学校／図書之印」「愛知第弌師範学校」

＊図 6 は末尾付記を参照。

図 7 中山傳信錄（ちゅうざんでんしんろく）　(書誌詳細: 漢 0538)

1766（明和 3）年序　史部地理類　刊本　6 冊　「欲」

「明倫堂図書」「愛知師／範学校／図書印」「愛知第一／師範学校／図書之印」「男子部」「愛知第弌師範学校」「文部」

清の徐葆光(じょほこう)著。1721（康熙 60）年成立。前年に清の外交使節として訪れた琉球の見聞を、皇帝への報告書としてまとめたもの。琉球王府の事情や中国との外交関係、王系、地理・制度・風俗・言語などが記されており、琉球の研究資料として知られる。

図 8 図 9 図 10

湖月抄（こげつしょう）　(書誌詳細: 和 1398　＊書誌詳細ページよりモノクロ全文画像を閲覧できます。)

1673（延宝 1）年刊　物語・注釈　刊本　61 冊(「雲隠説」複本あり）　「國」

・すべての本にある蔵書印

「愛知県第／一師範学／校図書印」(「表白」のみ押印無し)

「愛知第一／師範学校／図書之印」「男子部」「愛知第弌師範学校」

・一部の本にある蔵書印

明倫堂関連「尾藩寺社／官府蔵書」(「桐壺」「雲隠説」の 2 冊)

「明倫堂／書庫記」(上記以外のすべて)

その他　「消印」(「桐壺」「帚木」「橋姫」「椎本」の表紙)

「愛知県尋／常師範学／校図書印」(「帚木」のみ)

「愛知県／師範学校」(「系図」「年立」上下「表白」)

『源氏物語』の注釈書。北村季吟(きたむらきぎん)著。1673（延宝 1）年成立。書名は、紫式部が石山寺で琵琶湖上の月を見ながら、まず『源氏物語』の須磨の巻を書いたという言い伝えに由来する。

図 11 字彙（じい） （書誌詳細: 漢 0277)

1615（萬暦 43）刊　經部小學類　刊本　14 冊　（なし）

「御本」「愛知県第／一師範学／校図書印」「愛知第一／師範学校／図書之印」「男子部」「愛知第弍師範学校」、他 1 冊目のみ「大知／館記」あり。

※劣化が激しいため、展示を行わなかった。

図 12 尾張国解文（おわりのくにげぶみ） （書誌詳細: 和 0423）

文書　写本　1 冊　（なし）

「御日記所」「愛知県第／一師範学／校図書印」「愛知第一／師範学校／図書之印」「男子部」

988（永延 2）年 11 月 8 日付で尾張国の郡司、百姓らが国守である藤原元命(ふじわらのもとなが)の非法を朝廷に訴え、その解任を要求した 31 か条からなる文書。藤原元命は翌年 4 月 5 日に解任された。

本学所蔵資料は、1325（正中 2）年書写の名古屋市大須観音（真福寺宝生院）蔵本を文政年間（1818-1830）に尾張藩寺社奉行が書写したもの。

図 13 信長記（しんちょうき） （書誌詳細: 和 2077）

伝記　写本　5 冊　（なし）

「尾府内／庫図書」「愛知県第／一師範学／校図書印」「愛知第一／師範学校／図書之印」「男子部」他 1 印あり

※『信長記』と記されているが冒頭に「太田和泉守綴之」とあり、内容は『信長公記』である。

『信長公記』→織田信長の伝記。信長に近侍した太田牛一(おおたぎゅういち/和泉守)がその事績を編年的に記したもの。1598（慶長 3）年成立。「信長記」は安土桃山・江戸初期の儒学者である小瀬甫庵(おぜほあん)が、本書をもとに加筆・訂正・増補を行い物語風に潤色したもの。

図 14 貞観政要（じょうがんせいよう） （書誌詳細: 漢 0635）

1465（成化 1）年序・1600（慶長 5）年刊　子部儒家類　刊本　10 冊　（不明）

「張府内／庫図書」「愛知県／師範学校／図書印」「明治十七年改」「愛知第一／師範学校／図書之印」「男子部」「愛知第弍師範学校」

中国、唐の太宗と家臣たちとの政治上の議論を集大成し、分類した書。唐の呉兢(ごきょう)撰。720（開元 8）年以降に成立。治国安民の政治理想を主旨とし、帝王学・治道の規範の書として歴代の皇帝や政治家の必読書とされた。

・張州府志（ちょうしゅうふし） （書誌詳細: 和 2722）

1752（宝暦 2）年序・1856（安政 3）年写　地誌　写本　20 冊　「児」

「明倫堂／書庫記」「愛知県尋／常師範学／校図書印」「愛知第一／師範学校／図書之印」「男子部」「文部」「愛知第壱師範學校」

尾張藩が編纂した尾張国の地誌。

本学所蔵資料は、尾張藩士で明倫堂督学だった阿部松園(あべしょうえん)が学生に書写させたもの。

・参考太平記（さんこうたいへいき） （書誌詳細: 和 1530　＊書誌詳細ページよりモノクロ全文画像を閲覧できます。）

1691（元禄 4）年刊　軍記物語・考証　刊本　38 冊(巻第 2, 20, 21 欠）　「黎」

「明倫堂／書庫記」「愛知県第／一師範学／校図書印」「愛知第一／師範学校／図書之印」「男子部」「愛知第弍師範学校」「文部」

『太平記』（南北朝時代の軍記物語）の校訂・注釈書。水戸藩主である徳川光圀(とくがわみつくに)の命により、『大日本史』編纂の資料として作成されたもの。

・狭衣物語（さごろものがたり）　（書誌詳細：和 1550　＊書誌詳細ページよりモノクロ全文画像を閲覧できます。）

1654（承応 3）年刊　物語　刊本　12 冊　「賢」

「明倫堂／書庫記」「愛知第一／師範学校／図書之印」「男子部」「愛知第弍師範学校」

平安後期の物語。作者は源頼国(みなもとのよりくに)の娘である禖子(ばいし)内親王宣旨とする説が有力であるが、大弐三位(だいにのさんみ/紫式部娘）説もあり、未詳。狭衣大将の、いとこの源氏宮との遂げられぬ恋を中心とした恋愛生活を描く。『源氏物語』の影響が濃い。

・論語注疏解経（ろんごちゅうそかいけい）　（書誌詳細：漢 0023）

1637（崇禎 10）年刊　經部經注疏合刻類　刊本　4 冊　「天」

「明倫堂図書」「愛知県第／一師範学／校図書印」

『論語』の注釈書。中国北宋の邢昺(けいへい)著。儒教の経典を集めた『十三経注疏』の一つ。（注は本文の説明、疏は注をさらに詳しく説明したもの。「解経」は経典を解釈すること。）

・智慧の環（ちえわ）　（書誌詳細：和 0348）

1870-1871（明治 3-4）年刊　読本　刊本　4 冊　「匪」

「名古屋藩／学校之印」（丙）

現在でいう幼児または小学 1 年生用の絵本。学制開始（1872 年）以前の出版だが、奥書に「官許」、つまり政府公認と印刷されている。

・延喜式（えんぎしき）　（書誌詳細：和 0285）

1828（文政 11）年序　法制　刊本　50 冊　「箴」

「名古屋／藩学／校之印」（甲）「愛知県第／一師範学／校図書印」「愛知第一／師範学校／図書之印」

養老律令に対する施行細則を集大成した平安中期の法典。905（延喜 5）年醍醐天皇の命により編纂開始、927（延長 5）年完成、967（康保 4）年施行。

・枕草子春曙抄（まくらのそうししゅんしょしょう）　（書誌詳細：和 3833）

1674（延宝 2）年跋　注釈　刊本　12 冊　「行」

「明倫堂／書庫記」「愛知第一／師範学校／図書之印」「男子部」「愛知第弍師範学校」

『枕草子』の注釈書。北村季吟著。本文に傍注・頭注・校合・考証などを付したもの。

＊付記：以下は本学「明倫堂文庫」の範囲に含まないが、関連のある本学所蔵資料である。

図 6　明倫堂御書目（めいりんどうごしょもく）

（愛知教育大学附属図書館蔵。照合に用いた蔵書目録の 1 つ。）

末尾に「此書小牧県令朝田氏蔵書也　近藤冨美需／写之　予又幸於冨美需而謄写之／時維／安政第七庚申春　四宮兼智」とあり。「安政第七庚申」は 1860 年。明倫堂関連蔵書印はなく筥名の記載もないため明倫堂文庫には含まない。本学所蔵「浅野文庫」の浅野醒堂(あさのせいどう)による収書と考えられる。浅野は 1894(明治 27)年から 1927(昭和 2)年まで、本学の前身である愛知県第一師範学校にて漢文の教員を勤めた人物。

参考文献

・愛知教育大学「尾張藩「明倫堂」蔵書と愛知教育大学「明倫堂文庫」」　本学学術情報リポジトリ掲載　初出 2023 年

・今井正之助「愛知教育大学附属図書館蔵書印覚書(上)(下)」　本学附属図書館 HP 掲載　初出 2000 年

・須田肇「旧尾張藩書籍の引き継ぎと払い下げ－師範学校から民間へ－」　『徳川林政史研究所研究紀要』36　2002 年

・高木靖文「尾張藩における武教育の伝統と改革」　『徳川林政史研究所研究紀要』昭和 48 年度　1974 年

・織茂三郎「蓬左文庫の蔵書印　その 1.「御本」印記」　『蓬左』1　1980 年

・織茂三郎「蓬左文庫の蔵書印　その 2.「尾陽内庫」印記」　『蓬左』2　1980 年

・織茂三郎「蓬左文庫の蔵書印　その 3.「尾府内庫図書」「張府内庫図書」印記」　『蓬左』4　1980 年

・織茂三郎「蓬左文庫の蔵書印　その 6.「尾藩寺社官府蔵書」「尾張府尹廳印」印記」　『蓬左』8　1981 年

・「尾張藩御日記所とその蔵書」　『蓬左』44　1991 年

・「亀鈕銅印 印文「明倫堂図書」」　『蓬左』85　2012 年

・小川環樹，木田章義(注解)『千字文』　岩波書店　1997 年

・高瀬代次郎『冢田大峰』　光風館書店　1919 年

・『日本教育史資料　六』　文部省総務局　1892 年

・『学びの系譜』　名古屋市博物館　1999 年

・『愛知県史　通史編 6　近代 1』　愛知県　2017 年

・『古事類苑　文学部 2』　吉川弘文館　1979 年

・『国史大辞典　第 10 巻』　吉川弘文館　1989 年

・『広辞苑　第 7 版』　岩波書店　2018 年

・近藤春雄『中国学芸大事典』　大修館書店　1978 年

・JapanKnowledge Lib　（https://japanknowledge.com/library/）　2023 年 11 月時点

・安藤直太朗『淺野醒堂翁評伝』　浅野醒堂翁評伝刊行会　1961 年

創基一五〇周年記念関連事業

愛知教育大学「明倫堂文庫」展

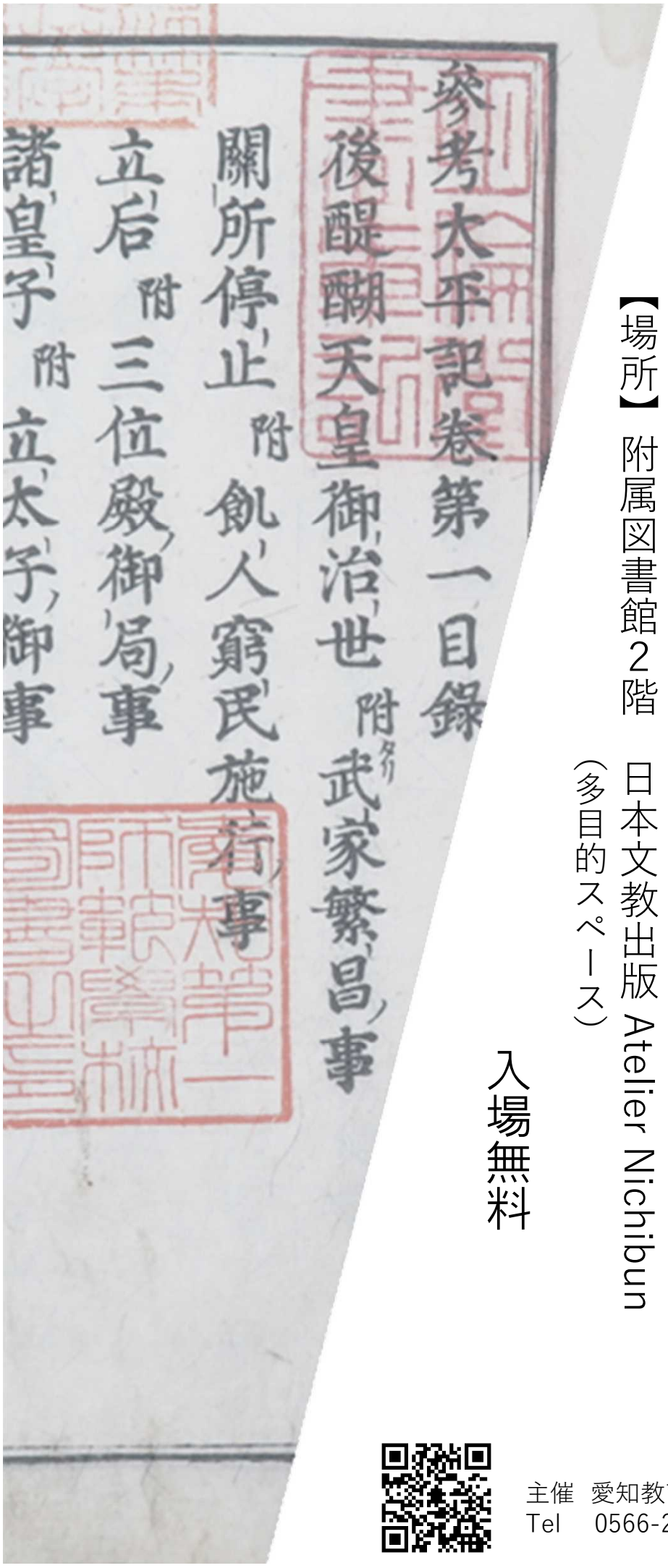
【日時】令和5年12月1日（金）～12月27日（水）

平日 9時～22時　土日 11時～17時

※開館スケジュールは図書館ホームページにてご確認ください

【場所】附属図書館2階　日本文教出版 Atelier Nichibun（多目的スペース）

入場無料



主催　愛知教育大学附属図書館
Tel　0566-26-2688

創基150周年記念関連事業

愛知教育大学「明倫堂文庫」展

江戸時代に尾張藩によって設置された藩校明倫堂には、漢学等の科目を教えるために多数の蔵書がありました。明治維新後、それらの一部は文部省の命により愛知師範学校へ移管され、後に愛知教育大学の前身である愛知県師範学校へ引き継がれています。

この度、愛知教育大学附属図書館では当館所蔵分を含む明倫堂旧蔵書の一覧を『尾張藩「明倫堂」蔵書と愛知教育大学「明倫堂文庫」』として図書館ホームページにて公開することとなりました。

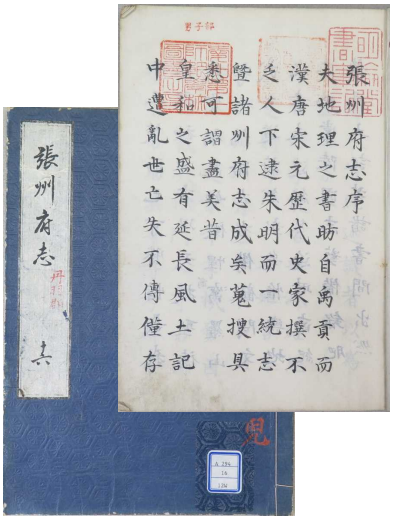
公開を記念し、当館が所蔵する明倫堂旧蔵書の一部を展示いたします。本学創基150周年を迎える今、江戸時代から引き継がれた蔵書の歴史を感じていただければ幸いです。

尾張藩「明倫堂」蔵書と愛知教育大学「明倫堂文庫」
https://meirindo.auelib.aichi-edu.ac.jp

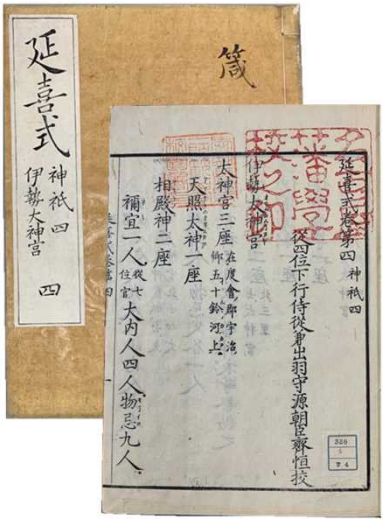
国立大学法人 愛知教育大学
明倫堂文庫

展示予定資料（一部） ※すべて当館所蔵

『羣書治要』天明7年(1787)
（右上：「明倫堂図書」印）



『張州府志』安政3年(1856)
（右上：「明倫堂書庫記」印）



『延喜式』文政11年(1828)
（右上：「名古屋藩学校之印」）

明倫堂と、その後を継ぐ名古屋藩学校の旧蔵書を中心とした関連書を展示予定です。

愛知教育大学附属図書館 Aichi University of Education Library
〒448-8542 愛知県刈谷市井ケ谷町広沢１
Tel 0566-26-2688 Fax 0566-26-2680

令和5年、愛知教育大学は明治6年に本学の前身である「愛知県養成学校」が設置されてから150年の節目を迎えました。

愛知教育大学「明倫堂文庫」展（創基 150 周年記念関連事業）

日時：令和５年１２月１日（金）～１２月２７日（水）　※ 終了しました。

場所：附属図書館２階　日本文教出版 Atelier Nichibun（多目的スペース）

愛知教育大学「明倫堂文庫」展　解説と展示資料

令和６年５月公開

愛知教育大学
明倫堂文庫